

高岡ロータリークラブ

2019/5/9

会長／加藤一博 幹事／山本政則

No.41



インスピレーションになるう

例会日：木曜日 12:30~13:30 創立：1951/11/15 チャーターナイト：1952/4/15 創立順位：No.68

司会 柳澤 会場監督 点鐘 加藤 会長

国歌斉唱／ロータリーソング

ゲスト 読売新聞北陸支社メディアコンテンツ班
赤畠 広志 氏

会長挨拶／報告

■誕生祝

伏江 努さん (5/11・67才)

立浪 徹さん (5/11・63才)

■皆出席表彰

塩崎 有克 さん (34年) 前川 俊朗 さん (26年)

花田 修一 さん (23年) 西村 博邦 さん (23年)

北村 耕作 さん (3年) 岡本 一剛 さん (3年)

千田 祐司 さん (2年) 陸田 敦史 さん (1年)

幹事報告

■配付／ガバナー月信・ロータリーの友 各5月号

委員会報告

■雑誌…ロータリーの友5月号紹介 (稲田委員長)

■会員増強… (谷道委員長)

< ニコニコBOX 20件 63,000円 >

加藤会長／令和 初の例会です。良い時代でありますように！吉村さん、令和初の卓話宜しくお願い致します。終の棲家がなんとか完成しました。引越は体力と相談しながら追々に。

田中副会長／今回は吉村さんの会員卓話です。新聞記者の裏話、ここだけの話が楽しみです。

山本幹事／10連休。皆様はどう過ごされましたか？私は物忘れが激しくなり周りに迷惑をかけています。

若野君／吉村様！卓話楽しみにしています。先日の「ブリッジ・バー」精算の不明の部分ニコボックスに！

吉村君／本日、少し物騒な卓話になってしまいそうですが宜しくお願ひします。

塩崎 (有) 君／毎日乗っている愛車が令和元年5月に入り走行距離10万kmを超えました。令和と一緒にまだまだもう少しは走れそうです。34年皆出席表彰どうも有難うございました。

中村君／5/19開催の高岡願い道駅伝を応援していただく一環で先週KNBさんの「文化創造都市高岡」の番組で、昨日北日本新聞さんの「けさの人」の欄で取り上げていただきました。ロータリーの友情に感謝！申込は5/15(水)まで受付けておりますので

ひ！

竹中君／四国に行ったことがないという家内の希望で、10連休は車で四国八十八カ所霊場にお遍路に行ってきました。白衣に菅笠、金剛杖といったいでたちで、毎日ご当地グルメを食べたり地酒を飲んだり、煩惱まみれの10日間でしたが、なんとか喧嘩もせず無事帰宅できたのはお大師様と家内のおかげかもしれません。今回70番札所まで行けたので、残りの18カ寺は9月に回ろうかと思っています。

石崎君／今年の国宝瑞龍寺での“春のライトアップ”は平成と令和をまたぐ10連休の中4/29~5/1の3日間に行なわれました。天候にも恵まれ、また、今年は特に県外からの来場者が多く大盛況のうちに無事終えることができました。これもひとえにロータリーメンバー及びメンバー企業の方々の協力のお陰です。本当に有難うございました。感謝。感謝です。

高木君／4/29から三日間開催した『国宝瑞龍寺 春のライトアップと門前市』には当クラブ会員各位からも様々な形でご支援とご協力を賜りました。お陰さまで、この三年間で最高の来場数を記録し、多くの方々に国宝の魅力を楽しんでいただくことができました。本日は地区の委員会と時間が重なるため例会を欠席させていただきます。吉村さん、「事件の裏側」別の機会に教えてください。

菅野君／連休中、御車山祭、獅子舞大競演会などでバタバタしていましたが妙高高原へも行ってきました。また頑張りましょう。

四津谷君／おかげさまでライトアップ期間中1万6000人の方がいらっしゃいました。GW期間中のご朱印も多い日で1日1800ありました。2時間待ちでした。今、ちょっと腱鞘炎になっています。正直、休みなしでした(涙)

津嶋君／4/26誕生日でした。お祝いの品ありがとうございます。

大谷君／誕生日祝い有難うございます。

伏江君／誕生日祝い有難うございます。

前川君／皆出席祝いただきまして有難うございます。

花田君／皆出席祝ありがとうございます。

西村君／皆出席を頂いて。

千田君／皆出席祝ありがとうございます。

上野君／すみませんが、本日早退させていただきます。

～プログラム～・～・～

会員卓話

『私の取材メモ～事件の裏側』

吉村 秀男会員



新聞記者として、大きな事件取材する機会を得た。容疑者が逮捕され、判決が確定して表向きは事件が解決したかにも見えても、その裏側には謎が残されたままとなることも多い。多数の被害者が出たり、組織的な犯行だったりする大事件の場合は、特に真相を解明しきれないままとなることは珍しくない。オウム真理教による事件はその最たるもので、首謀者や実行犯らの死刑が執行された今でも、真実は何だったのかを問い続けている関係者は少なくない。和歌山カレー事件のように犯人が黙して語らず、犯行動機がわからないままのものもある。

事件取材に関わって感じるのは、目撃情報の危うさである。記憶違いや後の情報で記憶が変容してしまう例は数限りなくある。見てもいないのにさも自分が見たかのように語る「エセ目撃者」さえいる。これらの誤った情報は、捜査の妨げになるだけでなく、時には冤罪にもつながりかねない危険なものだ。報道に携わる者として、偽情報に踊らされないことは大事ではあるが、スクープ合戦の中でゼロにできない恨みが残る。

日本は年々治安が良くなり、殺人などの刑法犯は減少の一途をたどっている。一方で、訪日外国人が急増しており、今後は犯罪が増えるのではないかと心配する人もいる。ただ、現実には外国人による犯罪が増えているわけではない。事件に限ったことではないが、思い込みや巷の噂だけで物事を判断するのは危ない。統計的な裏づけなどをしっかりと確認する必要がある。外国人受け入れのように国の将来にかかわる問題については、真実を見極めながら判断していくことが求められる。

